

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭60-83700

⑤ Int. Cl.⁴

D 06 F 83/00
71/36

識別記号

庁内整理番号

7352-4L
7134-4L

③ 公開 昭和60年(1985)5月11日

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

④ 発明の名称 衣類プレス仕上機の綴パッド

② 特 願 昭58-191115

② 出 願 昭58(1983)10月13日

⑦ 発 明 者 田 中 俊 英 豊中市熊野町3丁目1番16号
⑦ 出 願 人 田 中 俊 英 豊中市熊野町3丁目1番16号
⑦ 代 理 人 弁理士 鎌 田 文 二

明 細 書

1. 発明の名称

衣類プレス仕上機の綴パッド

2. 特許請求の範囲

(1) 複数の綴パッドを有する衣類プレス仕上機において、各綴パッドを適宜の温度に調整し、かつ各綴パッドに適宜の吸排気能力および硬さと厚みを附与したことを特徴とする衣類プレス仕上機の綴パッド。

(2) 綴パッドの適所に鍍糸、銅糸、銅片、アルミニウム片、機織綿、ポリプロピレン発泡体のような適宜の断熱材を介在させることにより、プレス時の温度を任意所望の温度に調整したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の衣類プレス仕上機の綴パッド。

3. 発明の詳細な説明

この発明は綴パッドからなる下綴、上綴、あるいは下綴、中綴、上綴または腰回り仕上げ通気袋などで構成した下綴、中綴、上綴を有する衣類プレス仕上機の綴パッドに関する。

従来この種の仕上機では、下綴はゴムおよび布はくを外被し、柔らかい表面としたアイロン合パッドの上に衣服を置き高温高压の蒸気を噴出する上綴を強い圧力で衣服に押付けてプレスし、仕上

ていた。上記のような仕上機によりプレス仕上した場合、衣服全面に饅いコテ光りを生じ、ソフトな風合いがなく、また、ズボンなどではその両側面の縫線部が落ち段や形崩れを起す。さらに、従来のプレス仕上機では綴パッドの温度が約170℃以上となっており、それ以下に温度を下げると蒸気が水滴となつて衣類にシミを作るので温度を下げる事ができない。

このため、ドスキン、ニットのような生地による衣類をプレスすると温度や圧力が高すぎて風合を損う。

また、温度調節可能な衣類プレス仕上機もあるが、これはきわめて高価であるなどの問題があった。

この発明は上記のような従来のプレス仕上機の

(1)

(2)

問題点を解決した衣服プレス仕上機の鍍パッドを提供することを目的とするものである。

すなわちこの発明は鍍パッドからなる下鍍および上鍍、あるいは下鍍、中鍍および上鍍を有する衣類プレス仕上機において、前記鍍パッドの温度や吸排気を各種衣服の仕上げに最もよい条件に制御するとともに各鍍パッドの調和が取れた硬さと厚さをそれぞれ有する衣類プレス仕上機の鍍パッドを提供するものである。

このような構成とすることにより、例えばズボンの両側面の縫線部のような縫代により生地を重ねることが多くなったところに該当する鍍の衣類に接する部分のパッドにおいては他の部分より軟らかくするとともに吸排気量を減少させて余り強いプレスが行われないようにすること、および断熱材により蒸気温度はそのまま鍍パッドの温度を低下させたり、鍍パッドの衣類に接する部分の全面を柔らかくし、プレス圧力を小さくするなどにより、ドスキンやニット製品の場合も風合いのよい仕上りが得られるようにしたものである。

(3)

12は、何れも適宜の保温断熱性または放熱性および通気性を有するとともに、適当な硬さと厚さを有する材料のもので、銀糸、銅糸、銅片、アルミニウム片、繊維綿、ポリプロピレン発泡体などが使用される。

また、銀糸、銅糸、銅片、アルミニウム片などは繊維綿や発泡体などに混入したり、シート状にして重ねるもので、保温、断熱性を調節するため、その混入割合などは適宜に調節する。

この発明は上記の構成であり、プレス仕上をしようとする衣類（図示省略）を下鍍Bのパッド12上に置き、上鍍Aを下げてパッド4、12により衣類を挟む。

ついで吸気排気管5、13から鍍体2、10に蒸気を供給して、パッド4、12で挟持中の衣類に対し、一定時間蒸気を送つたのち、蒸気の供給を停止すると同時に吸排気管5、13に連結した真空ポンプなどの吸引機（図示省略）を駆動し、パッド4、12を介して衣類を一定時間吸引して蒸気を除去し、仕上げる。

(5)

以下にこの発明の詳細を添附図に示す一実施例に基づいて説明する。

第1図は鍍パッドの一例としての上鍍A、第2図は同じく下鍍Bを示し、下鍍Bは図示省略してあるプレス台上に固定され、上鍍Aは図示省略してあるプレス台の後部に回動自在に取付けたアーム1の先端に取付けられ、アーム1を適宜の駆動装置により回動して上鍍Aを上下するものである。

上鍍Aは中空の鍍体2の下部の表面板3を通気性パッド4で被覆したもので、吸排気管5を有している。また表面板3には多数の通気孔6を設け、吸排気管5を経て鍍体2に入つた蒸気は通気孔6から吸排気できるようにする。

下鍍Bも中空の鍍体10の上部の表面板11を通気性パッド12で被覆したもので、吸排気管13を有している。また、表面板11には多数の通気孔14を設け、吸排気管13を経て鍍体10内に入つた蒸気は通気孔14から吸排気できるようにする。

前記上鍍Aのパッド4、および下鍍Bのパッド

(4)

この発明は上記のように上鍍および下鍍等の鍍パッドの材料を銀糸、銅糸、銅片、アルミニウム片、繊維綿、ポリプロピレン発泡体などを適宜に配合して、例えば120～130°あるいは80°のように必要に応じて各鍍パッドを適宜の温度に調整するとともに適宜の通気性および硬さと厚さを有するものとしたので、衣類の仕上げはソフトで美しく、落ち段がついたり形崩れを起したり醜いコテ光りを生ずるおそれなくなつたうえ、取扱者に火傷の危険がなく安全に作業ができる。

なお、2個以上の下鍍、中鍍および上鍍の多段の鍍をもつ衣類プレス仕上機の場合および着脱、挿入、取出しなどを自在にできる鍍体状のパッドを有する衣類プレス仕上機の場合はいずれもその効果、構成は前記の実施例の場合とほぼ同様であるから詳細な説明は省略する。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の上鍍の一実施例を示す縦断正面図、第2図は同じく下鍍の縦断正面図である。

A…上鍍、B…下鍍、2、10…鍍体、3、11

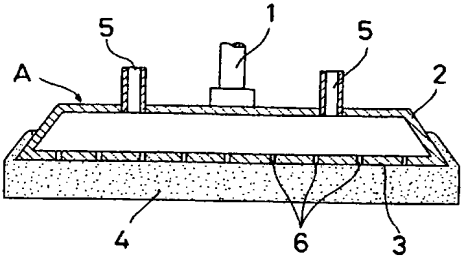
(6)

…表面板、4、12…鍍バッド、6、14…通気孔。

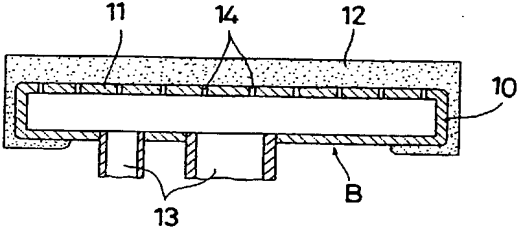
特許出願人 田 中 俊 英

間 代理人 鎌 田 文 二

第 1 図



第 2 図



(7)

BEST AVAILABLE COPY